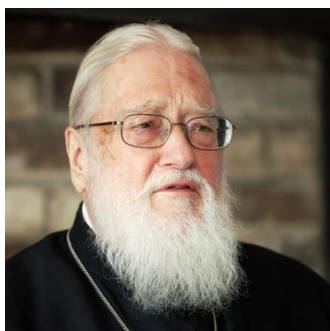




カリストス・ウェア府主教は、アメリカ正教会(OCA)の第12回全米公会(1999年)で『心を尽くし感謝して世界を神に献げ返す』という題の講演をされています。11月号からの続きです。

道央宣教セミ・ブロック機関紙

(札幌・小樽・苫小牧)

会 報

2023.12.1. No.403

札幌ハリストス正教会 発行



苫小牧ハリストス正教会

〒062-0042 札幌市豊平区福住2条2丁目3番1号

TEL:011-852-5644 FAX:011-856-0818

郵便振替 02790-8-4469

<http://www.orthodox-jp.com/sapporo/>

E-mail haris-sp@bz01.plala.or.jp

次は聖体礼儀において、人との結びつきが特に強調されていると私が思う二番目の場面になります。それは、アナフォラと呼ばれる長大な献げものの祈祷の直前です(※私たちが使っている聖歌譜には「親しみの捧げもの」と書かれています)。私たちはここで問答をします。司祷者が「願くは我が主

イイスス・ハリストス^{めぐみ}の恩、神・父の^{いつくしみ}慈、^{したしみ}聖神の親^{とも}は、爾衆人と偕

に在らんことを」と唱えますと、人々は「なんじの神^{しん}とも」と返します。司祷者が「心上に向うべし」と唱え、人々は「主に向えり」と返します。次に司祷者が「主に感謝すべし」と唱え、人々は「当然にして義なり」と返します。〔(原文の注)※本当であれば「当然にして義なり」だけを歌うべきです。最近では聖歌隊が「父と子と聖神、一体にして分れざ

る三者に伏し拝むは」と付け加えるのが普通になっていますが、これは後の時代の付加であって、祈祷の真の意味を歪めています。〕(※私たちが今教会で使っている聖歌譜は、「尊みおがまるべし」という言葉で終わっていますので、残念ながら「当然にして義なり」という言葉自体が分かりにくくなっています。)

心を尽くし感謝して 世界を神に献げ返す(2)

「当然にして義なり」というのは、「主に感謝すべし」と促されたこ

とに対する答えです。「主に感謝することは相応しく、正しいことである(当然にして義なり)。」というのが、この答えの意味するところです。

では、この問答について私たちはどのように理解すべきなのでしょう。ここに聖金ロイオアンによる解説があります。「この恐るべき機密が実際に行われるにあたって、司祭は人々のために、人々は

司祭のために祈る。「なんじの神^{しん}とも」の言葉の意味とは、まさしくここにある。聖体礼儀における一切は共有され、分かち合われる。というのも、司祭が一人で感謝を献げるのではなく、人々が全員で、司祭と共に感謝を献げるからである。司祭が人々の応答に応えた後、人々は「当然にして義なり」と返して同意を示す。その時はじめて司祭は、ユーカリストの感謝の祈りを始めるのである。」

聖金ロイオアンは、「聖体礼儀における一切は共有され、分かち合われる。」と言います。司祭はたった一人で、人々を差し置いて感謝を献げるではありません。司祭は一人では何もすることができません。司祭は人々を必要としているのです。ですから司祭はアナフォラを始めるにあたって、人々の同意、人々の関わりを求めます。「感謝すべし」と司祭は唱えますが、人々の同意を得てはじめて、人々の「当然にして義なり」という言葉の待つてはじめて、司祭はアナフォラを始めるのです。

以上、フレーズの中にある第一のポイントを取り上げ、検討してきました。「私」が献げるのではなく、「私たち」が献げます。私たち皆が共に献げる者であって、生き生きとした分かち合いのもとに私たちは献げるのです。

それでは「献げる(献りて)」という言葉に移りましょう。献げるということ、何かを犠牲にするということは、人間のみに固有な特徴であり、人間の本質をなす特徴です。献げものがないところに、犠牲のないところに、真の人間は存在し得ません。さて、人間の本質を表す身振りとは、どのようなものでしょう。それは、握りこぶしではないはずです。握りこぶしには、人に対して挑戦的で、対立

姿勢、人を受け付けないという姿勢が表れています。ハリストスのうちにある人、そのような人が見せる特徴的な身振りとは、手を開くことではないでしょうか。それは、自分のものを解き放ち、献げものをする手です。手を開くという身振りには、譲り与える yielding、手放す releasing、受け渡す presenting、分かち合う sharing といった特徴がそこに表れています。



ここで C.S. ルイスの言葉を引用させてください。私はかつて彼の講義をオックスフォード大学の学生の時に聴講していました。私は彼のことを「匿名の anonymous 正教徒」と呼んできました。

「自分から明け渡さないものは、いかなるものであっても決して本当の意味で自分のものとなることはない。自分をハリストスに差し出さないかぎり、本当の自己を手に入れることはない。自分から明け渡さないものは、いかなるものであっても決して完全に自分のものとなることはない。」もう一人、現在のローマ教皇であるヨハネ・パウロ二世の言葉を引用しましょう。彼はこのように言っています。「心から自己を与えることがなければ、人間は本当の自己を見出すことができない。」

人間に本質的な特徴とは、与えることです。次の三つの問いを立てることによって、この論点を深めていきたいと思います。

- ・毎日の祈りのサイクルの中で、私たちが最初にとることとは何でしょうか。
- ・神の母と養父であるイオシフは、救世

主が生まれた 40 日後に何をしたでしょうか。

・聖使徒パウエルは自分が死を迎える少し前、何と書いているのでしょうか。

最初の問いに答えましょう。毎日の祈りのサイクルは晩課から始まります。なぜかと言いますと、新たな一日は日没と共に始まるからです。創世記の冒頭の章にある万物の創造の物語には、このように書かれています。「夕となり、また朝となった。第一日である。」(創世記 1:5) 晩の次に朝が来ています。ですから毎日の祈りのサイクルで最初に位置する晩課の祈禱を、詩篇 104 篇(第 103 聖詠)を歌う、あるいは読むことによって私たちは始めるのです。「わがたましいよ、主をほめよ！わが神、主よ、あなたはいと大いにして、誉と威厳とを着られる！主よ、あなたのみわざはいかに多いことであろう。あなたはこれらをみな知恵をもって造られた！」

以下に挙げるのは、アレクサンドル・シュメーマン神父の言葉です。「それ(晩課)は一日の始まりに置かれます。これは讃美と感謝の内神の被造物としての世界を再発見することを意味します。教会は私たちを、いわば「生きるものとなった」人間が初めて目を開け、神が愛をもって人間に与え続けようとする世界を見た、あの最初の夕べに連れ戻してくれます。私たちが立つ聖堂の美とそこを包む光栄を見て、神に感謝を新たにします。この感謝のうちに人は真に人となります。・・・もし教会が「ハリストスにある」ならその最初のわざは常にこの感謝のわざ、世界を神に返すわざです。」(松島雄一訳『世のいのちのために』p85～p86)

「この感謝のうちに人は真に人となります。」とシュメーマン神父は書いていま

す。最初に造られた人間であるアダムが真の人間となる時、それはアダムが感謝のうちに、ユーカリスト(感謝＝聖体礼儀)のうちに、世界を神に献げ返す時です。そして毎日の祈りのサイクルの中で私たちが最初に行うこととは、自分自身をアダムと同じ立場に置くこと、つまりはアダムの献げるという行為を自分自身の行為とすることです。この献げものにおいて、私たちは真の自分自身へと変わります。そのため、私たちが毎日の祈りのサイクルで最初に行うこととは、世界を神に献げ返すことなのです。

では、第二の問いに移ります。神の母マリヤと養父である聖イオシフはハリストスがお生まれになった 40 日目に何をしたか、ということです。40 日がたって彼らは、生まれたばかりの幼子イイススを神殿へと連れて行き、そこでイイススを神に献げました。至聖なる童貞女は幼子を神から与えられました。しかし、彼女はその幼子を神に献げ返したのです。この献げものによって、彼女は本当の意味で彼女自身へととなりました。その時彼女は真の意味でテオトコスへと、生神女となりました。

「自分から明け渡さないものは、いかなるものであっても決して本当の意味で自分のものとなることはない。」と、C. S. ルイスは言います。神の母が神殿で我が子を差し出すのを前にして、私たちはその真実が明らかにされる一つの例を見ます。神の母がイイススを神に献げ返す時、イイススは本当の意味で彼女のものとなりました。愛が示されるのは、手放す時です。福^{さいわい}なる童貞女マリヤが理解したのは、まさにこのことです。そしてこれは、母となるもの、父となるものは誰であれ学ばなければいけないことなのです。

札幌教会の聖堂修復

信徒総会でもお話し
たとおり、聖堂外壁の
傷みが激しく、修復す
ることを計画しており
ます。特に深刻なのは、
聖堂入口のポーチに水
が浸入し、開いてしま
っている部分です。こ
のまま放置する訳にも
いきませんので、でき
るだけ早い修復をと考
えております。

株式会社小林工務店
に工事の見積もりをし
ていただいたところ、
修復に概算で765万円
かかるということでは
(傷み具合によつては
さらにかかることも考
えられます)。札幌教会
の修復基金ではまかな
える額ではありません
ので、今大きな課題となつています。



婦人会だより

10月29日聖体礼儀の後、信徒会館で婦人会総会を開きました。

今年も懇親会は見送り、お茶菓子のみの開催となりましたが、20名の方が参加して下さいました。

後藤神父さまから神様のために奉仕をするというお話を頂きました。

次に昨年度の活動報告、会計報告のあと会計監査報告が後藤神父さまからあり、みなさまに承認してもらいました。

今回限りで長年婦人会長を務めて下さったアンナ山口康子姉が降りられ、今年度からプラスチック中野が引き継ぐことになりました。よろしくお願いいたします。山口さん長い間ありがとうございました。しかし中野が担当していた会計は次の方が決まらず、今年度は山口さんに会計をお願いすることになりました。

今年度の活動予定はすでに見学会は済みましたが、奉仕日が12月6日、6月5日、9月4日が聖堂、会館、外回りの清掃日で、5月3日は復活祭の卵染めです。ご協力よろしくお願いします。

また、例年のように当番表も作成しました。

無理のないようにお互いに協力し合いながらご奉仕して頂ければと思っています。

次回の奉仕日は12月6日(水)9時から聖堂を中心に清掃します。ご協力よろしく願います。
(プラスチック中野良恵)

篠永神父様祝賀会

11月22日(木)、苫小牧教会主催による篠永神父様の長司祭昇叙祝賀会が、休職の慰労会を兼ねてグランドホテルニュー王子で行われました。苫小牧教会の信徒、そして札幌教会と小樽教会の信徒執事が集まり、盛大にお祝いすることができました。



パイプ椅子、いりませんか

札幌教会の信徒会館の2階に使っていないパイプ椅子がたくさんあります。かなり古いもので、重量も普通のものより少し重いですが、十分使えるものです。引き取っていただける方を探しています。



間もなく降誕祭！



降誕祭が近づいてまいりました。街はすっかりクリスマスのムードです。教会も降誕祭の歌を歌ったりと、少しずつ降誕祭への準備をしています。

札幌管轄でも4か所で、降誕祭の聖体礼儀を行います。降誕祭の聖体礼儀に参拝することとは正教徒の義務である、と言うつもりはありません。けれども、この大きな喜びに与る機会を、みすみす逃していませんか、と私は言いたいのです。

天使は羊飼いにイイススがお生まれになったことを告げる時、「見よ、すべての民に与えられる大きな喜びを、あなたがたに伝える。」（ルカ2:10）と言いました。ハリストスが私たちのもとにお生まれになったことは、この私たちにとっても大きな喜びです。それは、神の大きな愛であるからです。「神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった」（イオアン3:16）のです。

人は成長するにつれて、少しずつ社交性を身につけていきます。学校で、あるいは仕事場で少しずつ、人とうまくやっていくコツのようなものを身につけていきます。けれども

降誕祭の予定

☆小樽教会

前 晩 祷 12月16日(土)午後4時
聖体礼儀 12月17日(日)午前10時

☆札幌教会

前 晩 祷 12月23日(土)午後4時
聖体礼儀 12月24日(日)午前10時

☆苫小牧教会

前 晩 祷 1月 6日(土)午後4時
聖体礼儀 1月 7日(日)午前10時

☆旭川顕栄会

聖体礼儀 1月14日(日)午前10時

多くの人が、人との真の人格的な交わりを持つことができない孤独も抱えています。人よりも上に立つことに汲々とし、あるいは劣等感の中で自分を蔑んだりしています。そんな自分の内に心を閉じて生きている私たちに、神はその独り子を差し出してしています。溢れるばかりの無償の愛を差し出しています。

「ハリストス天よりす、迎えよ」ハリストスを迎えませんか。人間なんて、社会なんて、教会なんてこんなものとつぶやく自分を捨てて、私の殻を破って私のうちに来てください、と一歩踏み出しませんか。イイススという方へと目を向けませんか。

(エフレム)

札幌教会 降誕祭祝賀会

12月24日(日)の降誕祭の聖体礼儀後、札幌教会では4年ぶりとなる祝賀会を開きます！歌や踊り、紙芝居もあります。聖体礼儀が終わりましたら、ぜひ信徒会館の2階へお越しください。みなさんでハリストスのご降誕をお祝いしましょう。



永眠

フェオドル 久下 尚兄(85歳)

札幌教会

フェオドル久下尚兄が熊本へ旅行中に体調を崩され、11月12日(日)に永眠されました。お元気であったにもかかわらず、突然のことだったそうです。15日(水)に通夜パニヒダ、16日(木)に埋葬式が札幌教会の聖堂にて執り行われました。フェオドル兄の永遠の安息をお祈り致します。

✝ 永遠の記憶